をき、二月蒔べし、子かたく皮厚く、其まゝうへては生じかぬるゆへ、中までは痛まざる程少かみて、皮にちとわれめをつけてうゆべし、又は秋實を取て、深くよく肥たる地に、其まゝ蒔置て、糞土を以ておほひ、寒の中馬糞を多くおほひ置たるは、齒がたを付ずしても春になりて生出る物なり、南向の所に蒔べし、移しうゆる事は、一二年にもかぎらず、苗四五寸ばかりの時、九十月の比よし、うゆる地の事、區を廣さ二尺餘にして、一尺五寸程深くほり、埋糞に牛馬糞枯草など多く入れ、人糞の類は入ずして、肥土を以てふさぎ、區と〳〵の間三尺餘に一科づゝうへ置て、毎年馬屋糞、其外糞を多くをきて、四五年の後根を掘取べし、淨く洗ひ、手にてをしはり、曲らざる樣にして、干をくべし、賣て厚利の物なり、尤毎年は根をとらずして、二三年に一度づゝ掘取といへども、手入により根甚はびこり、其上斤目多物なるゆへ、過分の利を得べし、是久しくして、利を見る物なるゆへ、廻り遠き事の樣なれども、沙池の肥たる暖なる所にて、いつとなく年々に苗をうへ立置ば、却て他の作り物より手間も入ず、無生作にて利潤は多し、殊多く作りたらば、若シ間に勝れたる名花も出來べし、然れば一へんの利賣のみにあらず、面白くやさしき作り物なり、

〔花壇綱目下〕牡丹植養の事

一牡丹植の法は、九月中旬より十月中旬の比まで、分植て可然なり、掘て植時、根の高卑其筋を見分、土を間々へ能入て、根のいごかぬやうに土をかけ植る、土高く置あげて、其うへに植て根先のさがるやうに植べし、土はしらけたる赤土に、砂を十分一くわへ、下肥を多く切まぜ、百日計置て糞氣くさりまぜて、土の肥たる時こまかにくだきふるい用なり、霜月初よりくわだんに馬のふみたるわら、馬糞どもあつく置べし、根廻ほり置は惡し、正月の末二月中比雪きへて、右のわらをとるべし、砂計に油糟壹升程まぜて、壇にちらし、塵埃のなきやうに掃て置なり、花の時は蘆簾にて日覆をして可然也、花の後にはとるべし、夏は茶がらを根廻に置て、晩景に白水あるひは清水